

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2278200155		
法人名	有限会社ワイ・エイチ企画		
事業所名	グループホームサンシティあらい (東ユニット)		
所在地	静岡県湖西市新居町新居117-3		
自己評価作成日	平成24年11月27日	評価結果市町村受理日	平成24年12月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2010_022_kami=true&jiyosyoCd=2278200155-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所
所在地	静岡県葵区紺屋町5-8 マルシビル6階
訪問調査日	平成24年12月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設当初に比べて、地域への浸透がかなり進んできていると思います。たとえば、運営推進会議を足掛かりに、地元子ども会との交流会、自主防災会の見学会などが実現しています。月1回発行のサンシティ新聞についても、建物がある柏原町内会様のほかに、隣町である港町町内会様も回覧を始めてくださいました。また、防災について、昨年東日本大震災を受けて、わずか海岸から800メートルという立地であることを考慮し、津波対策として救命胴衣とヘルメットを用意し、レクリエーションとして着用訓練を行なうなど、独自の対策を立てています。今後も様々な点において、ご本人とご家族に安心して生活していただける環境を整えていきたいと考えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

JR新居駅近くの住宅地に、小規模多機能とデイサービスを併設し事業所があります。法人ロゴ・マークである太陽がここにこ出迎えてくれ、職員は朗らかで管理者もユーモアにあふれています。輪番で講義を企画運営する研修は職員の声からのもので、またレクも月替わりで順次担当し、意欲の高さが伝わります。中学は2校、高校は1校の福祉・職業体験、実習を受け入れ、高校は1学期間毎週1日継続訪問の長丁場です。大正琴やコーラスなどのボランティアの定期訪問もあり、外の空気がたえず注がれています。開設から7年を迎え、職員が成長し頼もしくなっていることが見え、またそれに伴い新たな高みの目標が浮上していることを確認しました。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は地域に根差そうとするものを策定しており、運営推進会議などを通して実践している。	理念は共用空間に掲示し、また外部の人の目にも触れるよう運営推進会議の資料にも刷り込んでいます。理念が実現しにくいような状況であっても理念があることで立ち返ることができ、会議などでプラス方向に転じる基軸となっています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎月1回発行の「サンシティ新聞」の回覧、自主防災会の施設見学、子ども会との交流会など、地域との交流を行なっている。	毎月発行の「サンシティ新聞」は自治会のみならず隣の町内会にも回覧してもらっています。「サンシティ夏まつり」は200名余の参加を得て、抽選会・新居吹奏楽団・エコ講演など、地域住民とともにつくったメニューが満載で、「地域住民として」という理念にも叶っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	サンシティ新聞に「入居者様から介護者が癒される瞬間」をテーマにした記事を掲載することがあり、これによって理解を深めていただけたらと思っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の様々な方を招いてご意見をいただいている。11月8日には、市内の居宅ケアマネだけを対象にした運営推進会議を、小規模多機能型居宅介護と共同で開催した。	「地域と一緒に、との意識啓発から名称を「地域コミュニケーション会合」と名付け、年9回の開催があります。事業所PRも兼ね、ケアマネジャーのみで開催するなど、毎回アイデアに富んだ運営がおこなわれています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議や防災訓練、サンシティ夏祭りなど、施設の大きなイベントや会議には市担当者に参加要請するなどしている。	運営推進会議に毎回参加してもらえ、またグループホーム連絡会の会合を通じても会話の機会があり、日頃からコミュニケーションがとれています。また、湖西市社会福祉協議会からボランティアの受け入れをおこなうなど、地域機関との連携に努めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロ宣言を行ない、実際に身体拘束は行っていない。	「安心、安全」を考慮し、2階の出入り口には簡易ロックがありますが、利用者は東西のユニットを気楽に往来しています。無論フィジカルロックもありませんが、「一時性・代替性・切迫性、に基づく書面の備えもあります。深夜早朝の徘徊でも制止することなく、記録には1晩にトイレ90回～というものもあります。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングや申し送りなど、普段から虐待について話し合い、防止に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要に応じて管理者が中心となって学んでいる。11月13日のミーティングにおける自主研修においてもこの話題について話し合った。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には書類に従い時間をかけて説明し、不明な点については質問をいただくようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議への出席要請、事業所入口に御意見箱の設置などに取り組んでいる。	一筆箋をつけて生活の状態を伝えたり、面会の際には家族の意向を感じ取ることができるように努めています。外出レクリエーションには誘っていますが、現状は普段の受診と面会での関わりが大半となっています。	面会はどうしてもお客様として迎え入れる場面となるため、家族としての関わりがもてるような機会をつくりたいとの想いが管理者にあるとのこと、今後の進捗を期待しています。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングでは広く意見を求めている。また、ヒヤリハット報告書の改正を行ない、職員が意見を自由に書ける欄を作った。	職員は研修やレクの担当となることで責任感や主体性が養われています。管理者は「働きやすい職場で、少しでも長く勤務してもらえよう」と、受容の訓練を開催するなど職員のメンタルケアにも配慮していますが、今後は個人面談も定例化したいと考えています。	職員のケアサービスの標準化が課題とのことですので、どこまで標準化できているのかを客観的に確認できるツールをつくっていくことを期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格の有無や実績に応じた給与水準になるよう配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	自主的に研修や資格試験を受ける者には、優先的に休みを与えている。また、9月から12月まで、市内の他グループホームと共同で研修会を開催している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は相互訪問などについて理解し勧められているが、人手に余裕がないので実現には至っていない。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	まずは本人の話を丁寧に聞き、丁寧に答えることから始め、信頼関係を早期に築けるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の意向や意見を聞いている。また、施設の限界についても説明し、必要があれば確認書を作成して、介護に対する家族と施設との共通の認識が持てるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その人に合った支援方法を提案し、納得の上でご利用いただいている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に本人との話し合いを大切にしている。ただ、日々作業に追われる私達職員は、「やりすぎ」になってしまうことがあるので、そうならないような気持ちを持ち続けることに苦労している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と良く話し合いをする中で、家族と施設は「一つのチームである」ことを話している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人の面会は、いつでもできるようにしている。また、来訪者が帰られた後も時々話題に出すなどし、ご本人にとっても良い思い出が反芻できるよう声かけしている。	知人の訪問は比較的あり、事業所としても歓迎しています。在宅の頃の趣味の継続が難しくなっていますが、ここでの新しい作業やレクを繰り返してなじみのものとしています。受診支援や面会時の食事介助など、家族にお願いできることは関わってもらい、家族と本人の時間がつくれるように努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	各人の性格、人間関係を把握し、全員が一体感を持って楽しく生活できるよう職員が架け橋になろうと努力している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談があればいつでも応じる体制は出来ている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人に合った暮らし方について、職員同士常に話し合っている。	気になる利用者の課題を毎回ミーティングで分析し直しています。発語は介護記録に記されていて、共有化しています。以前飲食店に関わっていた職員がメニューを切り盛りしていて、食べたいものや行事食のリクエストはすみやかに実現されています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にアセスメントした本人の生活歴を、職員全員が把握している。介護記録にアセスメントシートをファイルしており、いつでも見られるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	変化があった時などは、ユニットごとの申し送りノートによって、全員が速く正確に把握できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々少しずつ変わる本人の状況については、介護計画で対応しきれない部分もあるので、ユニットごとの申し送りノートで微調整している。	ケアサービスに取り組みつつ、プランに変化を書き込むことで“評価、”としていて、カンファレンスにて話し合い、東西各々の計画作成担当者がまとめ、ケアマネージャーがチェックしています。また、家族には面会や郵送で意見と理解を求めています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	いつもと違う言動や介護に必要なキーワードは、介護記録の中に書き込むようにし、赤線を引くなどして職員全員が見られるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居相談翌日に入居いただいた例があるなど、本人、家族の状況によって切迫性がある場合は、迅速に入居の手続きを行なうなどしている。また、ショートステイの受け入れも行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くのコンビニで本人が必要なものを一緒に買い物している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設の協力医療機関を利用される方が多いが、希望者は今までのかかりつけ医を受診している。また、そのかかりつけ医までの送迎なども、希望により職員が行っている。	在宅の頃からのかかりつけ医の利用者は半分くらいですが、事業所の協力医であっても基本的には家族に受診支援をお願いしています。家族が難しいという場合は職員が付き添っていて、現在過半数を超えています。また、看護師が週1日常駐しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内看護師にいつでも相談できる体制をとっているが、パート勤務であり現実的にその役割には限界があると感じている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した時には、時々見舞いに行ったり、病院側相談室などと情報交換を行なう事により、退院後の支援の在り方について随時検討している。(職場内看護師も参加)		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	高齢な方や終末期に近いと思われる方のご家族に対しては、施設から今後の方針について話し合いをしている。必要な方は「確認書」を交わし、家族と施設の認識の共通化を行なっている。	昨年のはじめての看取り以来計3名の方をお見送りしており、管理者は取組のたびに職員と面談し、相互理解を進めています。在宅からの主治医が日頃の往診から看取りまで協力してくれたという例もあります。また、「最後までサンシティで」との家族希望から、24時間対応の体位交換にも取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	22年12月と23年1月に普通救命講習を行なったが、職員の入れ替わりもあるので、来月上旬に再講習を行なおうと計画している。また、ヒヤリハット報告書についても改訂を行ない、ヒヤリハット事案の周知徹底を行なっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に火災避難訓練を行ない、消防署、地元自主防災会、市などから担当者を招請している。また、津波災害対策として、日々のレクリエーションの中で救命胴衣、ヘルメット着用訓練を行なっている。	9月の訓練には地域の自主防の皆さんに事業所の備えや状況を確認してもらった機会もありました。真新しい救命胴衣とヘルメットが全員分用意され、訓練もおこなっています。中日新聞の地域版に記事が、また全国版コラムにも紹介され、来訪者への啓発にもなっています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常業務内で、言葉かけや対応の仕方について、良い声かけの時にはその職員を褒め合ったり、改善が必要な声かけをした職員には、その都度お互いに注意し合ったりしている。	家族や本人の希望に応えることもありますが、希望がなければ～さんと声掛けするようにしています。利用者の気持ちを受容し共感的な理解に努めていて、決して否定せず、リフレインやタッチングなどを用いて利用者に寄り添うことを旨としています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その時にあわせてオープンクエスチョンとクローズドクエスチョンを使い分けられるように、職員同士話し合っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	中には適度な喫煙や飲酒を楽しんでいる方もある。基本的にご本人の希望を聞いているが、生活パターンが画一的になりがちであるので、職員も日々の仕事のペースに慣れすぎないように気持ちの入れ替えが必要である。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に床屋が施設に来訪し、希望通りに散髪してくれる。また、衣類についてはなるべく本人の希望を取り入れるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も同じ食卓で食事をして、食べ物の様々な事について話をしながら食事を楽しむようにしている。	食事担当が仕入から調理まで一貫しておこなって、味付けやメニュー構成などが安定しています。手作りケーキのトッピングやホットプレートをつかったら焼きなど参加型のおやつ作りを月1～2回おこなっています。防災訓練ではレトルト試食、外食も月1回程度取り組んでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量について記録をしている。また嚥下力の弱い方はトロミを使用し、誤嚥防止に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご本人の状態にあわせ、口腔ケアの声かけを行なっているが、毎食後は出来ていない人もいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立でない方には、排泄パターンを把握し、時間によって誘導している。自立の方でも声かけや見守りを行なっている。	介護記録をもとにパターンを把握し、誘導の仕方について利用者ごとに工夫し、尊厳を保ち失敗のないように排泄支援をおこなっています。夜間における転倒防止に離床センサーも導入し、理念の「安心、安全」を適えています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜食を多く取り入れ、便秘予防に努めるとともに、体操や歩行などの運動を行なっている。中には内服によるコントロールを行なっている方もある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的に3日に1回の入浴となっているが、入浴が大好きな方については入れる時には毎日でも入っていただけるようにしている。	1日あたりおおむね3人ずつを目安として入浴を提供していて、間が空かないようチェックシートも備えています。脱衣所、浴室は5Sが行き届き、清潔です。入浴は職員と利用者がマンツーマンになれる貴重な機会として、普段は出来ないじっくりとした会話を利用者は楽しんでいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後の時間には、お昼寝の声かけを行ない、希望者は居室で休んでいただいている。また夜の入床時間も本人の生活パターンにあわせている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的だけでなく、現病についても看護師との連携のもと把握を行なっている。薬の説明書については、受診記録の中にファイルをし、すぐに見られるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	例えば洗濯物でも、複雑な物をたためる方、タオルだけをたためる方など、その方のできる力にあわせて役割を持っていただいています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	季節の良い時には、外出レクリエーションを行なっています。また、時々ご家族と一緒に自宅に帰られる方もいます。	体調や天候に配慮しつつ、近所の公園や図書館への散策に出かけています。「肩が痛い」との訴えから肩を温める衣類を選びに出かけたりの、思いつき外出のほか、ほぼ毎月1回外出レクがあります。これまでに競艇やイチゴ狩りに出かけています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には家族と施設で管理しており、本人の希望があればお預かりしている小遣いの中から支出できるようにしている。あまり高価な物や通常生活では不要と思われるものについてはご家族に相談してから買う。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら手紙を出そうとされる方はいらっしゃらないが、年賀状には一言添えていただくよう声かけしている。電話についてはご家族の同意があればできるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	西日に射す時はブラインドを下ろしたり、冬には日向ぼっこが出来るようにしている。また、季節感を出せるような飾り付けを一緒に行っている。	共用空間には真新しい救命胴衣が輝いていて、安心感を醸成しています。クリスマスの彩に加え、利用者が丹念に作成したことが覗える正月の飾り付けの準備も進んでいました。アルコール消毒を多めに配し、きめ細かい衛生管理を心掛けていて、清掃が行き届いています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	レクリエーションや体操のときには同じテーブルに皆で集まったり、また居室で独りテレビを見られる時間を作ったりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンスなど、重量物については地震の関係もあり、軽量の物にさせていただくなど人命第一にしているが、身の回り品などについてはなるべく馴染みの物を持ちこんでいただいている。また、契約の際にもそのように助言している。	加齢に伴い、事業所で備えたベッドでは不具合になり、介護用ベッドに切り替えている利用者もいます。地震に備えてプラスチック製の家具を奨励していますが、使い慣れたものがあればできるだけ持ち込んでもらうようにしていて、炬燵やテレビなど好みの生活用品を視認しました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車いすでも自由に行き来できるよう障害物をなくし、西ユニットへも行かれるようにして広い行動範囲を確保している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2278200155		
法人名	有限会社ワイ・エイチ企画		
事業所名	グループホームサンシティあらい (西ユニット)		
所在地	静岡県湖西市新居町新居117-3		
自己評価作成日	平成24年11月27日	評価結果市町村受理日	平成24年12月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先: x.php?action_kouhyou_detail_2010_022_kani=true&JigyosyoCd=227

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所		
所在地	静岡県葵区紺屋町5-8 マルシビル6階		
訪問調査日	平成24年12月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設当初に比べて、地域への浸透がかなり進んできていると思います。たとえば、運営推進会議を足掛かりに、地元子ども会との交流会、自主防災会の見学会などが実現しています。月1回発行のサンシティ新聞についても、建物がある柏原町内会様のほかに、隣町である港町町内会様も回覧を始めてくださいました。また、防災について、昨年のも東日本大震災を受けて、わずか海岸から800メートルという立地であることを考慮し、津波対策として救命胴衣とヘルメットを用意し、レクリエーションとして着用訓練を行なうなど、独自の対策を立てています。今後も様々な点において、ご本人とご家族に安心して生活していただける環境を整えていきたいと考えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

JR新居駅近くの住宅地に、小規模多機能とデイサービスを併設し事業所はあります。法人ロゴ・マークである太陽がにこにこ出迎えてくれ、職員は朗らかで管理者もユーモアにあふれています。輪番で講義を企画運営する研修は職員の声からのもので、またレクも月替わりで順次担当し、意欲の高さが伝わります。中学は2校、高校は1校の福祉・職業体験、実習を受け入れ、高校は1学期間毎週1日継続訪問の長丁場です。大正琴やコーラスなどのボランティアの定期訪問もあり、外の空気がたえず注がれています。開設から7年を迎え、職員が成長し頼もしくなっていることが見え、またそれに伴い新たな高みの目標が浮上していることを確認しました。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は地域に根差そうとするものを策定しており、運営推進会議などを通して実践している。	理念は共用空間に掲示し、また外部の人の目にも触れるよう運営推進会議の資料にも刷り込んでいます。理念が実現しにくいような状況であっても理念があることで立ち返ることができ、会議などでプラス方向に転じる基軸となっています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎月1回発行の「サンシティ新聞」の回覧、自主防災会の施設見学、子ども会との交流会など、地域との交流を行なっている。	毎月発行の「サンシティ新聞」は自治会のみならず隣の町内会にも回覧してもらっています。「サンシティ夏まつり」は200名余の参加を得て、抽選会・新居吹奏楽団・エコ講演など、地域住民とともにつくったメニューが満載で、「地域住民として」という理念にも叶っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	サンシティ新聞に「入居者様から介護者が癒される瞬間」をテーマにした記事を掲載することがあり、これによって理解を深めていただけたらと思っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の様々な方を招いてご意見をいただいている。11月8日には、市内の居宅ケアマネだけを対象にした運営推進会議を、小規模多機能型居宅介護と共同で開催した。	「地域と一緒に、との意識啓発から名称を「地域コミュニケーション会合」と名付け、年9回の開催があります。事業所PRも兼ね、ケアマネジャーのみで開催するなど、毎回アイデアに富んだ運営がおこなわれています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や防災訓練、サンシティ夏祭りなど、施設の大きなイベントや会議には市担当者に参加要請するなどしている。	運営推進会議に毎回参加してもらえ、またグループホーム連絡会の会合を通じても会話の機会があり、日頃からコミュニケーションがとれています。また、湖西市社会福祉協議会からボランティアの受け入れをおこなうなど、地域機関との連携に努めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロ宣言を行ない、実際に身体拘束は行っていない。	「安心、安全」を考慮し、2階の出入り口には簡易ロックがありますが、利用者は東西のユニットを気楽に往来しています。無論フィジカルロックもありませんが、「一時性・代替性・切迫性、に基づく書面の備えもあります。深夜早朝の徘徊でも制止することなく、記録には1晩にトイレ90回～というものもあります。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングや申し送りなど、普段から虐待について話し合い、防止に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要に応じて管理者が中心となって学んでいる。11月13日のミーティングにおける自主研修においてもこの話題について話し合った。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には書類に従い時間をかけて説明し、不明な点については質問をいただくようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議への出席要請、事業所入口に御意見箱の設置などに取り組んでいる。	一筆箋をつけて生活の状態を伝えたり、面会の際には家族の意向を感じ取ることができるように努めています。外出レクリエーションには誘っていますが、現状は普段の受診と面会での関わりが大半となっています。	面会はどうしてもお客様として迎え入れる場面となるため、家族としての関わりがもてるような機会をつくりたいとの思いが管理者にあるとのこと、今後の進捗を期待しています。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングでは広く意見を求めている。また、ヒヤリハット報告書の改正を行ない、職員が意見を自由に書ける欄を作った。	職員は研修やレクの担当となることで責任感や主体性が養われています。管理者は「働きやすい職場で、少しでも長く勤務してもらえよう」と、受容の訓練を開催するなど職員のメンタルケアにも配慮していますが、今後は個人面談も定例化したいと考えています。	職員のケアサービスの標準化が課題とのもので、どこまで標準化できているのかを客観的に確認できるツールをつくっていくことを期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格の有無や実績に応じた給与水準になるよう配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	自主的に研修や資格試験を受ける者には、優先的に休みを与えている。また、9月から12月まで、市内の他グループホームと共同で研修会を開催している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は相互訪問などについて理解し勧めてくれているが、人手に余裕がないので実現には至っていない。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	まずは本人の話を丁寧に聞き、丁寧に答えることから始め、信頼関係を早期に築けるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の意向や意見を聞いている。また、施設の限界についても説明し、必要があれば確認書を作成して、介護に対する家族と施設との共通の認識が持てるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その人に合った支援方法を提案し、納得の上でご利用いただいている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に本人との話し合いを大切にしている。ただ、日々作業に追われる私達職員は、「やりすぎ」になってしまうことがあるので、そうならないような気持ちを持ち続けることに苦労している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と良く話し合いをする中で、家族と施設は「一つのチームである」ことを話し、情報の共有にも心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出レクリエーションで地元の神社に行ったりしている。また知人の面会なども自由にさせていただいており、馴染みの関係が途切れることのないようにしている。	知人の訪問は比較的あり、事業所としても歓迎しています。在宅の頃の趣味の継続が難しくなっていますが、ここでの新しい作業やレクを繰り返してなじみのものとしています。受診支援や面会時の食事介助など、家族にお願いできることは関わってもらい、家族と本人の時間がつくれるように努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いの話で職員が架け橋になったり、ゲームを一緒に行なって一体感を出している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談があればいつでも応じる体制は出来ている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話や表情で、思いや意向の把握をしている。困難な方も家族から話を聞いたり、日々の生活の中から本人本位で汲み取るよう努力している。	気になる利用者の課題を毎回ミーティングで分析し直しています。発語は介護記録に記されていて、共有化しています。以前飲食店に関わっていた職員がメニューを切り盛りしていて、食べたいものや行事食のリクエストはすみやかに実現されています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメントを元に全員が把握をしている。また、気になる点は家族面会時に聞き取りしたり、本人にも会話を通して聞き取ることもある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	家族、入居者から直接要望などを聞いたりして、本人に合った生活の提供を行なっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティングでは家族からの意向、本人の現状や想いを元に、個々の課題に応じた計画を作成している。	ケアサービスに取り組みつつ、プランに変化を書き込むことで“評価”としていて、カンファレンスにて話し合い、東西各々の計画作成担当者がまとめ、ケアマネージャーがチェックしています。また、家族には面会や郵送で意見と理解を求めています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録については全員が行えるようにしており、いつもと違う言動や、介護に必要なキーワードはわかりやすくマークなどしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	短期利用サービスを行なっている。今年度は計4回短期利用があった。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の催しに参加したり、施設の活動を知っていただくためにサンシティ新聞を発行している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設の協力医療機関を利用される方が多いが、希望者は今までのかかりつけ医を受診している。また、そのかかりつけ医までの送迎なども、希望により職員が行っている。緊急搬送先も家族から事前に聞き取りを行なっている。	在宅の頃からのかかりつけ医の利用者は半分くらいですが、事業所の協力医であっても基本的には家族に受診支援をお願いしています。家族が難しいという場合は職員が付き添っていて、現在過半数を超えています。また、看護師が週1日常駐しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内看護師にいつでも相談できる体制をとっているが、パート勤務であり現実的にその役割には限界があると感じている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した時には、時々見舞いに行ったり、病院側相談室などと情報交換を行なう事により、退院後の支援の在り方について随時検討している。(職場内看護師も参加)		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	高齢な方や終末期に近いと思われる方のご家族に対しては、施設から今後の方針について話し合いをしている。必要な方は「確認書」を交わし、家族と施設の認識の共通化を行なっている。	昨年のはじめての看取り以来計3名の方をお見送りしており、管理者は取組のたびに職員と面談し、相互理解を進めています。在宅からの主治医が日頃の往診から看取りまで協力してくれたという例もあります。また、「最後までサンシティで」との家族希望から、24時間対応の体位交換にも取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	22年12月と23年1月に普通救命講習を行なったが、職員の入れ替わりもあるので、来月上旬に再講習を行なおうと計画している。また、ヒヤリハット報告書についても改訂を行ない、ヒヤリハット事案の周知徹底を行なっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に火災避難訓練を行ない、消防署、地元自主防災会、市などから担当者を招請している。また、津波災害対策として、日々のレクリエーションの中で救命胴衣、ヘルメット着用訓練を行なっている。	9月の訓練には地域の自主防の皆さんに事業所の備えや状況を確認してもらった機会もありました。真新しい救命胴衣とヘルメットが全員分用意され、訓練もおこなっています。中日新聞の地域版に記事が、また全国版コラムにも紹介され、来訪者への啓発にもなっています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの生活歴、日常の生活スタイルを把握し、日々観察し、その方に合った対応をしている。	家族や本人の希望に応えることもありますが、希望がなければ～さんと声掛けするようにしています。利用者の気持ちを受容し共感的な理解に努めていて、決して否定せず、リフレインやタッチングなどを用いて利用者に寄り添うことを旨としています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の中でさりげなく希望を聞いたり、自己決定が出来るような声かけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	前項同様、会話の中でさりげなく希望を聞いたり、自己決定が出来るような声かけをしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣の際、出来るだけ自分で選んでいただくようにしている。要介助の方もいるが、整容等についても一日の始まりの身だしなみを大切に出来るよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	普通食、キザミ食など、それぞれ食べやすい形態にしている。出来る時、出来る方にテーブルを拭いていただいている。	食事担当が仕入から調理まで一貫しておこなって、味付けやメニュー構成などが安定しています。手作りケーキのトッピングやホットプレートをつかったら焼きなど参加型のおやつ作りを月1～2回おこなっています。防災訓練ではレトルト試食、外食も月1回程度取り組んでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂食、摂水量を記録し、個々の平均量を把握した上で支援している。また記録を共有し、日々の体調変化の把握に役立てている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの声かけを確実にし、義歯も必ず洗浄している。要介助者も毎食後、口腔内の残存物確認を行なっている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立でない方には、排泄パターンを把握し、時間によって誘導している。自立の方でも声かけや見守りを行なっている。	介護記録をもとにパターンを把握し、誘導の仕方について利用者ごとに工夫し、尊厳を保ち失敗のないように排泄支援をおこなっています。夜間における転倒防止に離床センサーも導入し、理念の「安心、安全」を適えています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜食を多く取り入れ、便秘予防に努めるとともに、体操や歩行などの運動を行なっている。中には内服によるコントロールを行なっている方もある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人に希望を聞き、おおむね3日に1回は入浴できるようにしている。	1日あたりおおむね3人ずつを目安として入浴を提供していて、間が空かないようチェックシートも備えています。脱衣所、浴室は5Sが行き届き、清潔です。入浴は職員と利用者がマンツーマンになれる貴重な機会として、普段は出来ないじっくりとした会話を利用者は楽しんでいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後の時間には、お昼寝の声かけを行ない、希望者は居室で休んでいただいている。また夜の入床時間も本人の生活パターンにあわせている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的だけでなく、現病についても看護師との連携のもと把握を行なっている。薬の説明書については、受診記録の中にファイルをし、すぐに見られるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事など出来ることをしていただいております、レクリエーションなどを通して気分転換が図れるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	時々近くの文化公園まで散歩に出かけたり、季節の良い時には外出レクリエーションも行っている。また、近くの病院へ受診する場合は、敢えて車は使わずに車いすや徒歩で景色を楽しみながら出かけている。	体調や天候に配慮しつつ、近所の公園や図書館への散策に出かけています。「肩が痛い」との訴えから肩を温める衣類を選びに出かけたりの、思いつき外出のほか、ほぼ毎月1回外出レクがあります。これまでに競艇やイチゴ狩りに出かけています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には家族と施設で管理しており、本人の希望があればお預かりしている小遣いの中から支出できるようにしている。あまり高価な物や通常生活では不要と思われるものについてはご家族に相談してから買う。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら手紙を出そうとされる方はいらっしゃらないが、年賀状には一言添えていただくよう声かけしている。電話についてはご家族の同意があればできるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間では、昼夜の区別が出来るよう照明やブラインドなどの配慮を行ない、また季節感を出すために壁に季節の物を飾るなどして工夫している。	共用空間には真新しい救命胴衣が輝いていて、安心感を醸成しています。クリスマスの彩に加え、利用者が丹念に作成したことが覗える正月の飾り付けの準備も進んでいました。アルコール消毒を多めに配し、きめ細かい衛生管理を心掛けていて、清掃が行き届いています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一応決まった席はあるが、その時々に応じてソファを提供したり、みんなで一つのテーブルに集まったりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご入居の際に、ご家族と一緒に部屋づくりをしている。また写真を飾るなど心地よく暮らせるようにしている。	加齢に伴い、事業所で備えたベッドでは不具合になり、介護用ベッドに切り替えている利用者もいます。地震に備えてプラスチック製の家具を奨励していますが、使い慣れたものがあればできるだけ持ち込んでもらうようにしていて、炬燵やテレビなど好みの生活用品を視認しました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手摺の配置を多くしたり、障害物をなくしたりしている。		